著

結核免疫ノ研究 第四 報

余等ノ接種苗ノ對動物毒 力試 驗

大阪市立刀根山療養所(所長有馬博士)

太 繩

壽

郞

Щ

青

敬

醫學博士

有

馬

賴

吉

第四 結 第二群成績概括

5 $\stackrel{\frown}{4}$ 3

「モルモット」第二群成績

第一群成績概括 家兎第二群成績

「モルモット」第一群成績

 $\widehat{2}$ $\widehat{\underline{1}}$

實驗方法 緖

言 次

目

實驗成績

家兎第一群成績

病原菌ヨリ異ナレル種々ノ表徴ヲ發揮シ、 結核菌ガ蠟様物質ヲ其體内ニ含有スルコトハ言フマデモナク結核菌ノ特徴ニシテ、 治療豫防上ノ桎梏トナリ、 殊二発疫ノ障碍ト ソレ ナルコト ガ爲メニ寄生病原菌トシテ他ノ ハ種々ノ事實ヲ綜合シ

テ殆ンド疑フベカラズ。 殊ニ結核免疫ノ成功ハ繋リテーニ生菌應用ノ途ヲ拓クニ在リト主張スベキ根據動カスベ

此見地ニ發シテ余等ハ曩ニ適當ナル培養基ニ「サポニーン」ヲ加フルコトニ依リテ殆ンド全ク蠟質ヲ含有セザル

結核生菌

カラザ

ルモノアルハ余等ノ年來高唱シ來レル所ナリ。

緖 言

三六

ヲ得ルコトヲ成就シ、 後之ヲ「リパーゼ」ヲ以テ處置スルコトニ依テ完全ニ抗酸性ヲ失ヒタル結核生菌ヲ手裏ニ收ムル コ

トヲ得タリ。

リテ、彼レガ病原性ニ奈何ノ影響ヲ蒙ルモノナルヤヲ攻究セント欲ス。蓋シ蠟質ヲ失ヒテ発疫發生ノ桎梏ヲ脫シタル 堃ニ余等ハ「サポニーン」培養ニヨリテ殆ンド完全ニ抗酸性ヲ失ヒタル結核菌培養ガ家兎竝ニ「モルモット」 ニ對 毒性如何ハ其實際應用上ノ價値ニ影響スル所決シテ尠少カラザルヲ想知スルニ由ルナリ。 病原性ヲ檢査シ、之ヲ同株菌ノ普通培養ノ毒性ト比較シテ、結核生菌ガ蠟質含有ニ由リテ有スル特徴ヲ失却ス コシテ現 jν 二依 菌

試驗方法

尚 魹 脈内ニ「モルモット」ニアリテハ腹壁皮下ニ接種ス第七組及ビ第八組ハ對照トシテ同菌株ノ普通培養ヲ、第七組ニハ一•○ 二組二一○・○瓱第三組二五・○瓱、 根第二五號株ニ「サポニーン」培養ヨリ菌乳劑(以下之ヲ「さ」菌ト略記ス)ヲ作リ、其第一組ニハ菌量ニシテ一〇〇•○瓩第 家兎竝ニ「モルモット」各々十六頭宛ヲ一群トシニ群宛ヲ準備シ、其一群ヲ更ニニ頭ツ、八組ニ別チ而シテ人型結核菌刀 顯微鏡的二其病變ノ狀況ヲ觀察シ、 ホ本試驗ヲ僅ニ三週間ノ經過觀察ニ止メタル 第八組ニ○•一瓱ヲ同一ノ方法ニテ接種ヲ行ヒ、第一群ハ一週ノ終ニ、第二群ハ第三週ノ終リニ撲殺剖檢シ肉眼 第四組□一・○瓱、第五組□○・一瓱、 對照動物ノ所見ニ比較シテ其毒性ノ强弱ヲ判定セントシタリ。 ハ 別ニ理由アリ、 他日機ヲ得テ之ヲ論述スル所アラン。 第六組二○・○一瓩ヲ、家兎ニアリテハ耳靜 的拉

實驗試驗

原 著 太繩・青山・有馬=結核免疫ノ研究

三七

備	度	程	化 變	剖檢	菌	菌	接種		
考	其他	腎	肝	脾	肺	剖檢時體重	显	苗	接種前體重
對	_	_	_	_	•	0,171,0		普	11:0
照	_	_		_		11,0元0	ċ	通	11 1110 1, 000
對	_	_	_	_	•	11, 000		培	九五〇
m	_	_	_	_	0	17.1至0	<u>-</u>	養	九五〇 1 八五〇 1 1110 1 110 1 110
	_	_	_	_	9	그 스 ㅠ	100.0	「サ	스 프
		_	_	_	•	三宝	ó	「サポニーン」培養	110
	-	_	_	_		1、农0	10.0	1	一大五〇
	_	_	_	_	•	004.1	o O	・」・培	- 10
	_	_	_	_	_	17 1130	-	養	
	_	_	_	_	_	0片圆门	五 ○		11.0
	_	_	_	_	_	1、共0			- 330
	_	_	_	_	_	17 1490	o o		=======================================
	_	_	_	_	_	11 11 12 11 05 11 00 11 15 11 15 11 15 15 15 15 15 15 15 15 15 15 15 15			1010
	_	_	_	_		一、八四〇	<u>•</u>		100
		_		_		三三三二	0.0		=======================================
	_	_	_		_	一、	0		- XEO

備考表中號●ハ病變程度最强、◎●ハ强、●●ハ中、 600ハ弱、●ハ微、●ハ極微、 一ハ陰性ヲ示シ以下準之

解剖的並ニ顯微鏡所見

家兎第七組所見 對照 普通培養一•○瓱血管內接種

肺ニ微細ナル新鮮結節ヲ認ム、肝及ビ腎ノ實質中ニ輕キ圓形細胞浸潤竈ヲ認ム、 第七六三號、第七六四號、 肺ハ少シク膨大シー般ニ充血極微細ナル結節ヲ認ム、 其他内臓病變ナシ。 其他內臟ニ蓍變ヲ認メズ。 顯微鏡所見

家兎第八組所見 對照 普通培養○•一瓱血管內接種

第七六五號、第七六六號、 圍ニ輕キ圓形細胞ノ浸潤ヲ見稀ニ新鮮結節ヲ認ム、肝實質内ニ圓形細胞浸潤竈ヲ認ム、其他内臓ニ蓍變ナシ。 肺ハ處々ニ充血點ヲ認ム、其他內臟著變ヲ認メズ、顯微鏡所見、肺ハ小血管竝ニ小氣管枝周

家兎第一組所見 「さ」菌一○○•○酕血管內接種

第七五一號、第七五二號、肺ハ少シク膨大シ割面ニ極メテ微細ナル少數ノ結節ヲ認ム、其他内臟ニ蓍變ヲ認メズ。 顯微

鏡所見、肺ニ少數ノ新鮮結節ヲ認ム、其他内臟ニ著變ヲ認メズ。

家兎第二組所見 「さ」菌一○•○瓱血管內接種

第七五三號、 第七五四號、 肺下葉ニー二ノ充血點ヲ認ム、 其他著變ヲ認メズ。 顯微鏡所見、 肺ニ微細ナル新鮮結節ヲ見

ル他著變ナシ。

家兎第三組所見 「さ」菌五•○瓱血管內接種

第七五五號、第七五六號,肺其他臟器ニ肉眼的竝ニ顯微鏡的ニ蓍變ヲ認メズ。

第七五七號乃至第七六二號、 家兎第四組乃至第六組所見 肺其他內臟ニ肉眼的竝ニ顯微鏡的著變ヲ認メズ。 「サポニーン」培養一•○──○•○一瓱血管內接種

歯 菌 接種時體重 剖檢時體重 變 剖 化 解 物 動 量 番號 區別 局所 脾 肺 腺 瓱 苗 |二九〇||二七五||三二〇||三〇〇||二四〇||二四五||二三五||二一〇||二||五| |三九〇|三六五|三〇〇|二八五|二三五|二五〇|二二〇|二二五|二〇〇|二二〇|二三〇|二〇〇|二二〇|二〇〇|二三〇|二二〇|二二〇 一、 第 6 普 七 第二表) ċ 一、畫圖 000 通 組 一、量量 第 培 ŧ · 八 養 17 時代 17 時代 17 時間 17 時間 jν モッ 組 + 0 0 0 第 • 10000 第一 : ポ • 群解剖所見比較 組 第 . _ 0 0 一, 三, 三, 三, 9 9 組 培 一, 壹<u>.</u> 第 飬 Ξ 五. 〇 「三芸」「三宝」 組 二四五 第 四 -0 | 二二〇 | 二四〇 | 二一五 | 二五〇 | 二五〇 組 一、 第 五 1, 100 組 一, 量 第 0.0 六 組

原 著 太繩·青山·有馬=結核免疫/研究

三九

Ī	備	,	度	程		
	考	其他	肾	肝		
	對	_	_	_		
	照	_	_	_		
	對		_	_		
	照	_	_	_		
			_	_		
		_	_	_		
		_	_	_		
		_	_	_		
		_		_		
		_	_	_		
		_	_	_		
		_	_	_		
		_	_	_		
		_	_	_		
		_	_	_		
		_	_	_		

解剖的並ニ顯微鏡所見

ル」第七組所見 對照 普通培養一•○瓩皮下接種

Æ

第一三三三號、接種局部ニ大豆大不正圓形ノ炎症性浸潤ヲ認ム、 部位腺米粒大ニ腫大スルモ乾酪變性竈ヲ認メズ、

其他

内臓ニ蓍變ヲ認メズ。

顯微鏡所見、各內臟ニ蓍變ヲ認メズ。

第一三三四號、 ノ浸潤ヲ認ム、 其他内臓ニ蓍變ヲ認メズ。 接種局部ニ豌豆大浸潤ヲ認ム、部位腺米粒大ニ腫大スルモ乾酪變性竈ヲ認メズ。肺ハ右中葉ニ帽針頭大 顯微鏡所見、 肺ハ著シク充血シ小血管及ビ小氣管枝周圍ニ顯著ナル 圓形 細胞

ノ浸潤アリ、其他内臓一般ニ充血ス。

「モル」第八組所見 | 對照 | 普通培養○•一瓱皮下接種

第一三三五號、第一三三六號、 接種局部ニ小米粒大ノ出血點ヲ認ム、 部位腺米粒大ニ腫大シ乾酪變性竈ヲ認メズ。 其他

内臓ニ著變ナシ。顯微鏡所見、内臓ニ著變ヲ認メズ。

「モル」第一組所見 「さ」菌一○○•○瓩皮下接種

ヲ有セズ、肺ニ極メテ微細ナル灰白色結節ヲ認ム、其他著變ナシ。顯微鏡所見、 第一三二一號、 接種局部ニ直徑〇•七糎許ノ不正圓形ノ潰瘍アリ創底乾酪樣物ヲ以テ被ハル、部位腺米粒大ニ腫大乾酪竈 肺ハ一般ニ充血シ稀ニ新鮮ナル結節ヲ

見ル、其他内臓充血ヲ呈スルノミ。

内臓著變ヲ認メズ。 第一三二二號 接種局部ニ五厘貨大ノ浸潤アリ其中央潰瘍ニ陷ル、部位腺大豆大ニ腫大中心ニ乾酪變性竈ヲ認ム、 顯微鏡所見、各內臟一般ニ充血スル他著變ヲ認メズ。 其他

「モル」第二組所見 「さ」菌一○•○瓱皮下接種

第一三二三號、 第一三二四號、 接種局部ニーハ大豆大一ハ小豆大ノ浸潤アリ、部位腺共ニ米粒大ニ腫大乾酪竈ヲ有セズ、

其他內臟著變ナシ。顯微鏡所見,內臟ニ著變ヲ認メズ。

「モル」第三組所見 「さ」菌五•○瓱皮下接種

第一三二五號、第一三二六號、接種局部ニ麻實大ノ出血點ヲ見ルモ炎症ヲ伴ハダ、部位腺米粒大ニ腫大乾酪竈ヲ有セダ、

其他著變ナシ。顯微鏡所見、內臟ニ變化ヲ認メズ。

「モル」第四組所見 「さ」菌一•○瓱皮下接種

第一三二七號、第一三二八號、接種局部變化ヲ認メズ、其他內臟ニ著變ナシ。顯微鏡所見、變化ヲ認メズ。

「モル」第五組所見 「さ」菌〇•一瓱皮下接種

第一三二九號、第一三三○號、接種局部竝ニ各內臟ニ著變ヲ認メズ。顯微鏡所見、

「モル」第六組所見 「さ」菌○•○一瓱接種

第一三二一號、第一三三二號、接種局部竝ニ各內臟ニ蓍變ヲ認メズ。

顯微鏡所見、

變化ヲ認メズ。

變化ヲ認メズ。

第一群 接種後一週間ノ所見概括

家 兎

普通培養一∙○瓩ノ接種ヲ受ケタル對照動物竝ニ「さ」菌一○○∙○瓩ノ接種ヲ受ケタルモ ノハ倶ニ肺少シク膨大シ其割面

微細ナル新生結節ヲ發生セルモ他ニ肉眼的病變ヲ呈セズ。

普通培養○•一瓩ヲ接種セラレタルモノ竝ニ「さ」菌五•○瓩以下ノ接種ヲ受ケタルモノハ ビ○・一瓩ノ接種ヲ受ケタルモ ゙ネン」菌一○•○瓩ヲ接種セラレタルモノ・ミ肺ニ極微ノ變化アリ。 在テモ肺以外ノ臓器ニ病變ヲ呈セズ。「さ」菌一○•○酕ヲ接種セラレタ ノハ肺及ビ肝ニ新鮮ナル結節形成ヲ見ルモ「さ」菌ヲ接種セラレタルモノハ其一○○•○瓩 顯微鏡的檢査ニ於テ、 iv モノ ハ 未ダ 何等ノ 病變ヲ 呈セズ゛ 對照動物即チ普通培養一•○及 肺ニ在テモ極微 病變ヲ呈ス 唯

原 著 太繩・青山・有馬=結核免疫ノ研究

五•○瓱以下!「さ」菌量ニテハ些モ病徴ヲ呈セズ。

Æ モ

生ジ、 = 頭中 **度輕シ、但シ中一頭ハ肺ニ在テハ旣ニ結節ヲ顯ハシタリ。** ニ「さ」粛一○○•○瓩ヲ接種セラレタ 對照動 在テハ 腺モ稍~ 頭ハ亦肺ニ極微ノ結節形成アリ、 物卽チ普通培養一・○瓱ヲ接種セ 何等病變 腫脹セル ノ痕跡ヲモ認メズ。 アリ、 五・〇瓩ヲ jν 其○•一 モノハ、局所ニ旣ニ著シキ ラレ 接種 タルモ ノモ 瓩ヲ接種セラレ ノハ接種部ニ極メテ輕キ變化ヲ呈ス ノハ接種部 「さ」菌一○•○瓩ヲ接種セラレ タル 輕キ病變アリ、隣接淋巴腺極メテ微カナ 病變ヲ呈シ潰瘍ヲモ形成シタリ、 モノハ 唯ダ接種部ニ極微ノ變化ヲ呈 ıν タ モ jν 腺 Æ 腫ヲ生セズ。 ノハ接種部 腺ハ 'n 腫 ス 腫 大ス v 一・〇 瓱以下 輕 脹 キ變化ヲ アリ、 ₹, ŀ, Æ 其

比較スル ケ 卽ヶ第一 一•○瓱ニ及バズ。但シ使用セル接種材料卽チ菌乳劑ノ中ニ含マル固形物質卽チ菌體 タル 時ハ兩者ノ差餘リニ大ナル Æ 週ノ終ニ於テハ、 ノト 於テハ「さ」菌一○○•○酕ノ現ハス病變ハ普通培養一•○酕ノ現ハス病變ニ近ク、「さ」菌 略~相匹敵スル病變ヲ呈シ、「さ」菌一○•○瓱ノ接種セラレ 家兎ニ在テハー・○瓩ノ普通培養ヲ接種サレ ガ故ニ此比較ハ必ズャ正當ナラズ。 タル タル 對照動物ト、 Æ ノニ在テ肺ニ極微ノ變化アル ノ組織内異物トシテ 「さ」菌一 〇〇·〇**瓩** 一○・○瓱ハ普通培養 ノ作用ヲ考慮ス ノ接種ヲ受

著大ナル 更ニ「モルモット」ニ於ケル 養ヲ接種セラレ チ「さ」菌一○○・○瓩ヲ接種セラレタル タ ジメ接 卽チ對照一・○瓱接種ノモノハ ıν 種ヲ受ケタル モ 病變ヲ呈スルハ、 此遠達作用ナシ。 タルモノハ其病變極メテ輕度ナリ. Æ ノ一頭 病變ヲ觀察參考スルニ其接種局所ノ 其病原性ニ基クノ以外ニ菌體ノ組織異物トシテノ作用併發セル ノミ亦タ僅ニ此遠達作用ヲ呈シ、 即チ知ル、家兎ニ在テ「さ」菌大量接種 接種局所ノ病變輕キニ拘ラズ族ク旣ニ肺ニ病變ヲ呈セル モノハ 其接種部ニ旣ニ甚ダ著明ナル 但シ茲ニ看過シ難キハ其遠達作用卽チ內臟ヲ侵襲スル 病變ニ見テ其異物作用 一頭ハ未ダ之ヲ呈セズ、「さ」 一が肺ニ 病變ヲ呈 病變ヲ呈 ス シ、 w 如何ニ Æ モ -モ 菌一 ノナル モノアリ、 , 一大ナル ナ jν ○•○ 瓱以下 / 接種 ヲ 受 w Æ ガ ト」 コ カ ŀ 「き」菌一〇〇・〇 一・〇瓩ノ普通 ヲ。 想到ス 在 ノ作用ナリト 接種部 べ シ。 卽

瓱

蕃
太繩·青·
Ш
• 有
1
馬
11
結
核免
容
疫
1
研究

備	度	€ 程	化参	善 剖	解	剖檢	歯	菌	接種	物	動	
考	其他	腎	肝	脾	肺	剖檢時體重	量	苗	時體重	番號	區別	
對	-	_	-	99		17, 140		普	1. 四元0	七七九	第	
照	-	_	_	••	90	三 140 三 三八	- O	通	11 25	七八〇	七組	(第三表)
對	-	_	_	90	80 0	1		培	1., 000		第	i
照	_	_	_	**	60 8	1、全0 1、公5	<u>-</u>	養	つ 一 た た た う つ	七八一七八二	八組	家兎第二
	_	_	_	•	••	二二三元	<u></u>	゙゚゚゙゙゙゙゙゙゚゚			第	一群解
	_	_	_	•	99	三、五00	0.0	ホ	1. #00 1. http://	七六七 七六八	組	群解剖所見比較
	_	_	_	_	?? •	二、五宝〇	_	-	11, 4010	七六九七七〇	第一	比較
	_	_	-	_	_	11, 000	0	治培	1、九八0		組	
	-	_	-	_	80	11, 1100		養	11° MOC	七七	第一	
	-	_	_	_	000	11-000	五〇		二公(七七二	三組	
	_	-	-	_	•	00时,1			00時。1	七七三	第	
	_	_	_	_	•	014,11	- 0		00位置。11	七七四	四組	
	_	_	_	-	_	11. \$00					第	
	_	_	_	-	_	0 1.210	<u>-</u>		0至0	七七五 七七六	五組	
	_		_	_		0 11, 100	_		0,11,010	ハセセト	第	
		- ! - !	_		-	0 17丸1C	0.0		0 1.4E	1244 1247	六組	

解剖的並ニ顯微鏡所見

家兎第七組所見 對照 普通培養一•○瓱血管內接種

化ヲ認メ、其他腎、肝ノ實質内ニ圓形細胞ノ浸潤竈ヲ見ル。 脾ハ共ニニ倍大ニ腫大シ多數ノ結節ヲ見ル、其他内臓蓍變ヲ認メズ。顯微鏡所見、 第七七九號、第七八○號、 肺膨大シ表面竝ニ割面ニ灰色亞粟粒大乃至粟粒大結節叢生シ一部乾酪性肺炎ノ狀況ヲ呈ス、 肺及ビ脾ハ肉眼的所見ニ相當スル變

家兎第八組所見 對照 普通培養○•一瓱接種。

第七八一號、第七八二號、 肺ハ表面ニ灰白色亞粟粒大乃至粟粒大ノ結節多數ニ發生シ相癒合シタル部アリ、 脾ハ 腫大シ

四四四

微細ナル結節ヲ認ム、 其他內臟著變ヲ認メズ。 顯微鏡所見、 肉眼的所見ニ相當スル固有ノ變化ヲ認ム、 尚ぉ肝

ニ圓形細胞浸潤竈アリ、腎ハ著シク充血ス。

家兎第一組所見 「≀」菌一○○・○砥血管內接種

變ヲ認メズ。 顯微鏡所見、 第七六七號, 第七六八號、 肉眼的所見ニ應ズル固有ノ變化ヲ認ム、尚ぉ肝、 肺膨大シ灰白色粟粒大ノ結節ヲ以テ全ク浸淫セラル、 腎ノ實質内ニ圓形細胞ノ浸潤竈ヲ認ム。 脾ハ微細ナル結節ヲ散發ス、 肝、 腎著

家兎第二組所見 「≀」菌一○•○瓱血管内接種

第七六九號、 肺ニ粟粒大孤立性硬キ結節散發ス、其他内臟蓍變ヲ認メズ。顯微鏡所見、 肉眼的所見ニー致ス。

肺ハ肉眼的結節形成ヲ認メザルモ顯微鏡的ニ極メテ小ナル結節ヲ認ム、

其他ノ内臓ニ著變ナシ。

家兎第三組所見 「さ」崩五•○瓱血管內接種

第七七〇號、

第七七一號、 第七七二號、 肺ニ少數ノ粟粒大結節ヲ形成ス、 其他內臟ニ著變ヲ認メズ。 顯微鏡所見、 肺ニ固有ノ變化ヲ

認ムル他著變ヲ認メズ。

家兎第四組所見 「さ」菌一•○瓱血管內接種

第七七三號、 第七七四號、 脂 二 微細ナル結節散發シーハ殊ニ下葉ニ著シキヲ認ム。 顯微鏡所見、 肺二肉眼的所見二一致

ヘル變化ヲ認ムル他著變ナシ。

家兎第五組所見 「さ」菌〇•一毼血管內接種

第七七五號: 第七七六號、 肺其他ノ内臓ニ著變ヲ認メズ。 顯微鏡所見、 肺ハ小血管及ビ小氣管枝ノ周圍ニ輕微ナル圓形

細胞浸潤竈アリ、其他内臓ニ蓍變ヲ認メズ。

家兎第六組所見 「吶」菌○•○一瓱血管內接種

第七七七號

第七七八號、

概シテ第六組ノ所見ニ一致ス。

原 著 太繩・青山・有馬=結核免疫ノ研究

備		度	程	化鱼	遊 音	刮 解	<u> </u>	剖檢	菌	菌	接種時	物	動	
考	其他	腎	肝	脾	肺	腺	局所	· · · · · · · · · · · · · ·	量	苗	時體重	番號	區別	
對	• •	_	0	00	_	• •	90	1100		普		一、三党	第	
照		:	•	00	-	**	••	二八〇	•	通	1100	1、至0	七組	(第四是)
對	•	_	_	:	_	90	00	五五〇		培	二 八 〇	三	第	
照	0	_		:		8	90	1:110	-	養	1240	一	八組	コノコ
	•	_	_	•	_	00	99	1110	10	゙゙゙゙゙゚゙゙゙゙゙゙゚	11七〇 11三〇	1、11年	第]
		_	_	_	_	00	••	= 0	0.00	ポ	二四〇	一、	組	第二君:
	_	_	_	_	_	000	**	三四〇	_	_	1110	一、量	第	君角音戶馬以較
	_	_	_	_	_	0.0	••	11110	0.0	ン」培	11110	1 川田0	三組	月出起
	_	_	_	-	_	_	:	= 0		養	11110	一. 温	第一	,
	_	_	_	_	-	:	••	100	五 ○		= 0	一. 過	三組	
	_	_	_	-	_		•	五五〇			五	一、	第四	
	-	_	_	_		_	0	= 10	•		100	一, 三四四	組	
	-	_	_	-	-	-	•	11100			二八〇	一、三四五	第一	
	_		_		_	-		五〇	0		110	一、三兴	五組	
	_	-	_		_	-	_	二五〇二三〇	0		二八〇二三〇二二〇	1、1四年	第	
	_	_	_	-	_	-	_	111110	0.0		一八〇	一. 過	六組	

解剖的並二顯微鏡所見

「モル」第七組所見 對照 普通培養一•○瓱皮下接種

膜腺及ビ後腹膜腺ノ腫大乾酪變性ニ陷レルヲ見ル。顯微鏡所見、 第一三四九號、接種局部ニ蠶豆大中央乾酪變性ニ陷レル浸潤アリ、部位腺ハ大豆大ニ腫大シ中央ニ乾酪竈ヲ有ス、肺ハ 著變ヲ認メズ、脾ハ二倍大ニ達シ微細ナル結節叢生ス、肝ハ表面ニ幅針頭大結節散發ス、腎ハ著變ヲ認メズ、其他腸間 肉眼的所見ニー致スル固有ノ病變ヲ認メ尚ぉ腎ハ肉眼

的著變ヲ認メザ y シ Æ 小ナル結節ヲ認メタリ。

第 |他腸間膜腺及ビ後腹膜腺ノ ク充血ス、 一三五〇號 脾く三倍大ニ 接種局 部ニ 腫大シ微細ナル結節叢生ス、肝表面ニ帽針頭大結節散發ス。 蠶豆大中央乾酪變性三 腫大乾酪變性ニ陷レルヲ見ル。 陷 V jν 浸潤ア 顯微鏡所見 Ý, 部位腺 肉眼的所見ニ應ズル固有ノ變化ヲ認ム。 ハ蠶豆大ニ 腫大シ中央ニ乾酪竈ヲ有ス、 腎ハニニノ微細ナル結節ヲ見ル、 肺少

ル」第八組所見 對照 普通培養〇·一屁皮下接種

所見ニ應ズル 第 = メ ヹ 陷 一三五一號 脾ハニ倍大ニ腫大粗糙微細ナル結節ヲ散發ス、 ルヲ認ム 固 有ノ變化ヲ認ム。 接種局部ニ大豆大中央乾酪變性ニ陷レル浸潤アリ、 顯微鏡所見 肺充血 シ輕キ圓形細胞浸潤竈アリ、 肝及ビ腎ハ著變ヲ認メズ、 肝及ビ腎ノ實質内ニ圓形細胞浸潤ヲ認ム其他 部位腺大豆大ニ腫大中央乾酪竈アリ、 腸間膜腺及ビ後腹膜腺 ノ腫大乾 肺ハ 著變ヲ認 酪變性 肉 眼

的

第一三五二號 細胞浸潤竈アリ、 結節ヲ見、 腎ハ著變ヲ認メズ、 接種局部ニ小豆大浸潤アリ、 脾ハ小ナル結節ヲ認メ、 腸間膜腺及ビ後腹膜腺腫大シ乾酪變性 腎ハ圓形細胞浸潤竈ヲ有ス、 部位腺米粒大ニ腫大ス、 二陥レ 肺著變ヲ認メズ、 肝 ハ肉服的所見ニ jν Æ ノアリ。 脾常大粗糙、 應ズル固有ノ變化ヲ認 顯微鏡所見、 肝 肺 一、二帽 充血 針 頭大 圓 形

Æ ル」第一組所見 「さ」菌一○○・○皮下接種

呈 後腹膜腺ハ腫大シ乾酪變性 乾酪竈ヲ有ス、 第一三三七號、 エスル ´ノ ミ、 其 肺著變ナシ、 他肉眼的所見っ 接種局部ニー 三陷 脾ハ二倍大ニ腫大シ少敷ノ帽針頭大結節ヲ形成ス、 **錢貨大ニ達スル不正圓形** 一應ズル ν)V ŧ 固有ノ病變ヲ認ム。 ノアリ。 顯微鏡所見 ノ潰瘍ヲ作リ創底乾酪樣物ヲ以テ被ハル、 肺 著シク充血 シ圓形細胞浸潤竈ヲ認 肝及腎ニ 著變ヲ認メズ、 部位腺豌豆大ニ 4 肝及ビ腎 腸間 膜腺及ビ 充 腫 大シ 血

7 第 有 一三三八號 肺其他 接 ノ内臓ニ 種局 部 著變ヲ認メズ。 五厘貨大ノ潰瘍アリ創底ハ乾酪樣物ヲ以テ被ハル、 顯微鏡所見 各內臟充血 稀 圓形細胞浸潤竈ヲ 部位腺大豆大三腫 認 ム w 大シ中央ニ Æ 乾 酪變性竈

Æ ル 第二組所見 「さ」菌一〇・〇瓩皮下接種

第一三三九號、 二乾酪竈ヲ有ス、 第一三四〇號、 其他內臟ニ蓍變ヲ認メズ、顯微鏡所見、 接種局部ハ共ニ約小豆大中央乾酪竈ヲ有スル浸潤アリ、 各内臓ハ充血シ稀ニ圓形細胞ノ浸潤竈ヲ認 部位腺米粒大ニ腫大シ中心ニ ムル モノアリ。 僅

モル」第三組所見 「さ」菌五・〇瓩皮下接種

粒大ニシテ乾酪竈ヲ有セズ、 第一三四一號、 第一三四二號 一ハ米粒大ニシテ中心ニ極微ノ乾酪竈ヲ有ス、 接種局部ニーハ小豆大一ハ米粒大ノ浸潤アリ中心ニ僅ニ乾酪竈ヲ有ス。 其他内臓ニ著變ヲ認メズ。 部位 顯微鏡所見 腺 一ハ半米

「モル」第四組所見 「さ」菌一・〇瓩皮下接種 變ヲ認メズ。

第一三四三號、 第一三四四號、 接種局部ニ米粒大ノ浸潤アリ、 部位腺半米粒大ニ腫大シーハ乾酪竈ヲ有セズ、 其他內臟

著變ヲ認メズ、 顯微鏡所見、 著變ヲ認メズ。

Æ **ル」第五組所見** 「さ」菌一•○瓱皮下接種

第一三四五號、 ニモ著變ヲ認メズ。 第一三四六號、 顯微鏡所見、 接種局部ニーハ極微ノ浸潤アル 著變ナシ。 Æ ハ全ク變化ヲ認メズ、

部位腺變化ヲ認メズ、

其他內

モル」第六組所見 「さ」菌○•○一瓱皮下接種

一三四七號、 第一三四八號、 接種局部、 部位腺、 其他內臟ニ蓍變ヲ認メズ。 顯微鏡的ニ モ亦然リ。

第二群 接種後三週間ノ所見概括

家 兎

第

膱

多數ノ圓形細胞浸潤竈ヲ見ル。 普通培養一∙○毼及ビ○•一毼ノ接種ヲ受ケタル對照動物ニ於テハ概 粟粒大ノ結節ヲ叢生シ、 脾モ亦腫大シ多數ノ結節ヲ生ジ、 是等ノ變化ハ一・○瓱ヲ接種セラレタル 顯微鏡的 ルシテ肺 = ハ之ニ相當スル變化ヲ認 モノニ於テ○・一瓩接種 ハ皆著シク膨大シ表面割面共ニ亞粟粒大乃至 ノモ メ、 其上肝腎 1 3 y モ 概シテ稍 ノ實質内

强 ニキヲ 見 ル。

原 蓍 大繩•青山•有馬=結核免疫ノ研究

「さ」菌一○○・○瓩ヲ接種セラレタルモ 「さ」菌一○•○及ビー•○瓩ヲ接種セルモノニアリテハ其病變極メテ輕度ニシテ肺ニ 輕ク、概シテ○•一茋ヲ接種セラレ 氣管枝ノ周圍ニ輕度ノ圓形細胞浸潤ヲ見ルノミ、 咸ナ纖維性軟骨樣ナリ。 ○・一毼以下ノモノニ在テハ肉眼的變化無ク僅ニ タルモ ノ 、 ノ、變化ニ近シ。殊ニ脾臟ノ變化ハ對照一・○瓱接種ノモ 現ハセル病變ハ、 未ダ結節ヲ成サズ。 普通培養一・○瓱ノ接種ヲ受ケタルモ 顯微鏡的檢査ニョリテ ハ結節ヲ現 ハセ 1 ドモ乾酪變性ヲ呈 1 3 肺 リモ著 ソレ 小血管並ニ小 ŋ ク輕シ。 Æ 稍

「モルモット」

三ノ結節形成スルモノアリ。 蹊部腺腫大蠶豆大ニ至リ中央乾變セリ。 普通培養一・○瓱及ビ○・一瓱ヲ接種セル 對照動物ハ接種部ニー錢銅貨大乃至豌豆大ニ至ル中央乾變セル結核竈アリ、 叉腸間膜腺 竝二 後腹膜腺腫大乾變シ、 肝脾ニ 微細新鮮ナル 結節叢生 腎 鼠

巴腺 病變ヲ現ハス 侵襲ノ毒性ハ又タ之ニ劣リ、 ク弱シト見ルベシ。又之ヲ○•一瓱接種ノ對照動物ニ比スルニ接種部ノ病變ハ「さ」菌接種ニ於テ甚ダ强シト雖モ、其内臟 菌株ニ於テ普通培養ナルト「サポニーン」加培養ナルトニ依ル毒力ノ差ハ三週間ニ於テハ一•○○○對一以上ニシテ、 で」菌一○○・○瓩接種ノモノニ在テハ、 <u>-</u> Æ Æ ノ變化ハ旣ニ之ヨリモ輕ク、 ン」培養ノ毒力ハ同一菌株ノ普通培養ノ毒力ノ千分ノ一以下ニ減弱セラレタルモノナリ。 ノア ノアリ、 ニ比スベカラズ。 之レヲ對照一•○瓱接種ニ於テ皆ナ脾ヲ侵シ、腹腔淋巴腺ヲ侵シ肝ニ 甚ダ强シト雖モ、 卽チ此對照動物中ハ悉ク脾ト腹腔淋巴腺ニ病變ヲ呈シ或ルモノハ亦旣ニ肝ニ 即チ「な」南一○○・○酕ノ毒力ハ接種物ノ含ム固形成分ノ 脾ニ輕度ノ侵襲ヲナシ、 其病原性ハ同様菌ノ普通培養○•一瓩ヨリモ蓍シク弱シト謂フヲ得ベシ。卽チ同 接種局所ニハー•○瓩接種ノ對照動物ヨリモ高度ノ病變ヲ呈スレド 後腹膜腺竝ニ 腸間膜腺ヲ 一達スル 侵 スモ 量ノ 莫大ナルニ モノアル ノアレドモ亦未 ニ比シテ其毒性著シ 依ツテ局所 輕キ病變ヲ呈 脾ヲ モ、 隣接淋 Æ

ヲ呈セズ、五・○既乃至一・○酰接種ノモ さ」菌一○・○瓩 ノ接種ヲ受ケタル æ ノハ接種局所ニ中度ノ病變ヲ現ハシ、 ノハ腺腫ヲモ呈セザルモノアリ、其○・一瓩接種ノモ 淋巴腺ノ腫脹ヲ見レド ノハ腺腫ヲ呈セザ モ、未ダ内臓侵達作用 jν 素

リ局所ニモ變化ナキモノアリ、○•○一瓱接種セルモノハ病變ノ痕跡モ之レナシ。

之ヲ要スルニ第三週マデノ成績ニ據リ、吾等ハ結核菌ノ「サポニーン」培養ハ普通培養ニ比シテ總テノ病原性著シク弱ク、 殊ニ其內臟侵襲作用特ニ甚ダシク減弱セルヲ觀取セザルヲ得ズ、吾等ハ重キヲ此ノ內臟侵襲性ノ弱キニ置ク。

結論

年一月三十一日稿) 場合ニ在テスラ亦唯ダ微カニ之ヲ呈スルニ過ギズ。以テ其毒性減弱ノ殆ンド絕對的ノ殺減ニ近キヲ觀ルナリ。(大正十二 弱ク又乙!○・一瓩ノ毒性ヨリモ弱シ。卽チ結核菌ハ余等ノ「サポニーン」加培養ニテ其蠟質ヲ脫却スルコトニ依テ約一• 毼乃至○•○一毼以下ハ「モルモット」 (皮下接種)體ニ毒性ヲ有セズ亦病竈ヲ形成セズ。余等ノ結核菌「サポニーン」加培養 毒力强盛ナルー人型結核菌刀根第二五號ヲ以テ「サポニーン」加培養ヲ施シテ接種菌ヲ作製シ、直チニソレガ家兎竝ニ「モ ○○○對一以下ニ其毒力ヲ滅殺セラル、ヲ見ル。殊ニ其內臟侵襲作用ハ「モルモット」ニ對シテ其一○○•○瓩ヲ接種セル ルモット」ニ對スル 毒力ヲ檢スルニ其○•一瓩以下ハ家兎(血管內接種)體ニ毒性ヲ有セズ、病竈ヲ形成セズ。又其○•一 (甲)ガ毒性ヲ現ハスノ量ヲ同菌株ノ普通培養(乙)ト比較スルニ、甲ノ一○○•○瓩ノ毒性ハ乙ノ一•○瓩ノ毒性ヨリモ甚ダ